

セント・オーガスティン

西洋芝の一つであるセントオーガスティングラス(*Stenotaphrum Secundatum Kuntze.*)は、俗称でイヌシバとも呼ばれ 西インド諸島が原産です。芝の中で最も耐陰性と耐塩性に優れており、踏圧に強く、繁殖力が旺盛で密に地表面を覆うため雑草の侵入を抑え、除草・刈込の要が少ない低管理型の芝です。ノシバより葉幅が広く(5~6mm程度)感触がやわらかです。木陰の多い公園や、浜辺に近いキャンプ場などに適しています。その他、道路や法面の管理、家の庭先、又は木立のグランドカバーなど場所を選ぶことなく利用されております。冷害や霜害に弱いとされていますが、関東地方までは成育可能です。

また、ノシバ同様冬枯れし翌春、旺盛に生育をはじめます。秋の枯れあがりと春の緑化はノシバに比べて若干遅い傾向があります。



ティフトン419 (Tifway)

西洋芝の一つであるティフトン419(*Cynodon Dactylon.*)は、アメリカの試験場で、育成された交雑種です。繁殖力が旺盛なため、踏みつけによる損傷の回復力が著しく速く、生命力の強い芝です。

一夏で一握りの莖が数㎡の芝生に成長します。葉はコウライシバよりも柔らかくきめが細かい。

管理面では、養分要求度が高く、こまめな刈込みを必要としますが、光沢のある美しい芝生が期待できます。耐陰性・耐寒性が乏しいので、日当たりの良い場所向きです。但し、排気ガスの多い場所は好みません。サッカー場やゴルフ場などのスポーツフィールドとしてよく用いられ、最近では家庭用のウインターオーバーシーティングのベースとしても利用価値があります。

